

Title	ドルガン語韻文作品「幸もてる者」(オグド・アクショーノワ作)について
Author(s)	藤代, 節
Citation	内陸アジア言語の研究. 17 p.25-p.60
Issue Date	2002-09
oaire:version	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/17272">https://hdl.handle.net/11094/17272</a>
rights	
Note	

*Osaka University Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

# ドルガン語韻文作品「幸もてる者」 (オグド・アクショーノワ作) について

藤 代 節

庄垣内正弘教授がチュルク語研究に邁進なさ  
る姿を仰ぎみて20年になる。教えを受けた事  
柄は数知れぬが、北方チュルク語研究の扉を  
たたき勇気を与えてくださったことに深く感  
謝し、教授の還暦を寿ぎ、この小論を捧げる。

## 0. はじめに

ドルガン語は言語学的には北方チュルク語、ヤクート語の一方言として扱える言語である。しかし、その使用状況からみて独立した言語として扱われるべき点も多い。本稿ではドルガン語による韻文作品について、その原文とともに和訳を掲げ、解題を施したい。

## 1. ドルガン語

ドルガン語はロシア連邦クラスノヤルスク地方タイムル自治管区および隣接するヤクート(サハ)共和国(ヤクーチヤ)アナバル地区に居住するおよそ6000人の人口を持つドルガン人の言語である。この言語の成立はドルガン人が一つの民族集団としてアイデンティティをもつまでのプロセスと密接に結びついている。ドルガン族は現在の主たる居住地であるタイムル半島に17-18世紀頃に形成された民族集団である。この比較的新しい民族の成立基盤は複雑である。ヤクーチア北西部から移動してきたエベンキ人及びヤクート人が、タイムルに先住しもっぱらトナカイ飼育に従事していたエベンキ人に合流し、さらに周辺

の各地に傭兵や商人等としてヨーロッパロシアから移住してきていたロシア人も参加し、この新しい民族が形成された。これらの人々が意志疎通のための共通の言語として選んだのが当時シベリア全域で広く使用され、時にはシベリアの諸民族の間でリングフランカの役割を果たしていたヤクート語であった。このヤクート語を基盤にドルガン語が成立した。ドルガン民族の形成過程においてヤクート語話者ではなかった集団は自らの言語を下層言語とし、やがてドルガン語を母語として言語共同体としてのドルガン族の一角を成していったのであろう。

ドルガン語は言語学的にはヤクート語のタイムル方言とみなせる言語であるが、語彙のレベルにおいてヤクート語標準語とは差異が大きい。1940年にウブリヤトワが「ノリリスクのドルガン人の言語」として研究対象にしてより後、ドルガン語をヤクート語とは別個の言語とみなす傾向がある(Убрятова: 1985)。ドルガン語の独立性を強めた要因は標準ヤクート語との語彙の隔たりの他に、ドルガン人が自らの民族集団としてのアイデンティティをその言語にもとめたことも大きい(藤代: 2000)。さらにドルガン語の独立性を高めたのは正書法の成立である。

ドルガン語による最初の印刷出版物としては1973年にドルガン人詩人オグド・アクショーフによる詩が発表されている。この詩集『バラクサン』(Аксенова: 1973)においてドルガン語の表記はすでにヤクート語の標準的表記からは外れている。ここからはじまり、ドルガン語アルファベットが1978年に公式に認められるまでの過程をたどるのであった。やがてドルガン語独自の教材によりドルガン語教育を行うべきであるという信念のもと、オグド・アクショーフは同じくドルガン人出身の教育学者アンナ・バルボーリナとウラジーミル・パルフィーリエフとともにドルガン語アルファベット教本の作成に取り組んだ。このアルファベット教本(初等読本)の作成には試行錯誤が繰り返された。1981年に実験的教科書が作成され、かなり大幅な改訂を経た後、1990年にはじめての『初等教本』の出版がレニングラード市にある教育出版社からなされた(Аксенова,

Барболина: 1990). 1992 年には同社から北方少数民族の学習辞典シリーズの  
一巻として『ドルガン語・ロシア語 = ロシア語・ドルガン語辞書』(4000 語) が  
出版されるに至った (Аксенова et al.: 1992).

## 2. 詩人オグド・アクショーンワ<sup>(1)</sup>

初めてのドルガン人出身の作家であるエブドキヤ(オグド)・エゴロブナ・ア  
クショーンワはタイムル(ドルガン・ネネツ)自治管区アバム地区ボガニダ村に  
て1936 年2月8日に生まれた。

父エゴル・ドミトリエビッチ・アクショーンワは共産党アバム地区委員会書  
記であり、母フェドウシャ・カルボブナは主婦として3人の子どもを育てる婦  
人であった。オグドは幼少時代から祖母のジエブギエンからその教育において  
大きな影響をうけていた。

エブドキヤ・アクショーンワはロシア語での詩作はすでに5年次に在学中に  
始めており、その作品は地元紙に取り上げられることもあり、また散文作品が  
賞をとるなど、早くからその才能は注目されていた。

中等学校卒業後、イルクーツク大学に入学したが、健康を損ない卒業は果た  
せなかった。ハタング地区のカトゥリク村、ジュダニハ村、ノボリブノエ村に  
て教員と司書を兼ね、また赤色チュム(北方各地に革命後設営された共産主義文  
化活動拠点)の指導者として働いた。

アマチュアの文化活動のオーガナイザーとしてエブドキヤ・エゴロブナは囃  
し唄、歌を創作し、さらに後には母語であるドルガン語で詩を創作するようにな  
った。それら作品群は数多のコンクールで入賞を果たすなどした。

1969 年にクラスノヤルスク書籍出版から『極地日』シリーズの一冊として詩

---

(1) Огдо Аксенова Огдо・アクショーンワのロシア名は Евдокия Егоровна Аксенова  
エウドキヤ・エゴロブナ・アクショーンワである。オグド・アクショーンワの略歴な  
どについては Семенюк (1993) に拠った。

集『初日の出』が O. アクショーフ、L. ニュニヤング、<sup>(2)</sup>その他の詩人等の詩を載せて編まれた。

そのころから、モスクワのレオニド・ヤフニン、Al. ゴリン、またクラスノヤルスクのアイダ・フョドロワ、他にもオグドの詩を翻訳しようという人々が現れるようになった。

タイムル民族管区 40 周年記念に管区の民族芸術館により O. アクショーフの詩集が小冊子として刊行された。

1973 年にクラスノヤルスク書籍出版からオグド(エブドキヤ)・アクショーフ著『バラクサン』(Аксенова: 1973)が出版された。そこには謎々もあれば諺や古くからの言い伝えなどのフォークロールの要素が豊富に盛り込まれていた。ドルガン語による初めての書籍『バラクサン』はドルガン語の書法が作られる以前に出たものであった。つまり、当時、『バラクサン』は実際的には同時に初等読本でもあったといえる。

良い声に恵まれ、音感もよかったこともあり、エブドキヤ・エゴロブナは年老いた獵師達や竈を守る女達に教わったドルガンの歌の旋律をすぐ覚えることができた。1975 年に『ドルガンの歌』、1976 年に『ツンドラ模様』が出版されると、オグドによる詩や囃し唄にドルガンの人々は遠い祖先の旋律を感じ、ツンドラの伝統が歌い込まれているのを認めたという。

その後もますます創作活動を活発に行い、北方少数民族出身の文学者として活躍したが、1995 年 1 月 14 日の未明にドルガン人最初の詩人、作家、教育者であり、また北方チュルク文化活動の旗手であったオグド・アクショーフはなくなった。ドルガン語・文学の分野のみならず、北方諸民族の文化活動においても大きな損失であった。本稿に掲げる「幸もてる者」は作者オグド・アクショーフが詩集『バラクサン』を世に問うた同じ年に創作され、ごく近年までドルガン語原文が未刊行であった作品である。

---

(2) タイムル自治管区に主に居住する「北方少数民族」の一つ、ガナサン出身の詩人、作家。

### 3. 「幸もてる者」

#### 3. 1 背景など

この作品は上記のように1973年にドゥジンカ市にてオグド・アクショールノワによって書かれた作品である。当時はロシア語訳によってのみ発表された。オグド・アクショールノワの作品を多く翻訳し、作者と親交の深かった翻訳家でありまた自身も詩人であるワレーリイ・クラベツにオグド・アクショールノワが自ら逐語的にロシア語に訳し書き送ったものをクラベツがロシア語の韻文作品に整え発表した。クラベツ氏の訳はオグド・アクショールノワの原文の意図を損なわない翻訳である。オグド・アクショールノワのドルガン語原稿はその死後、クラベツの元から、原稿整理をおこなっていたアンナ・バルボーリナのもとに届けられた。その後、2001年にはこれら未刊行の作品を含んだ作品集が発表されたが、「幸もてる者」もそこに含まれている(Barbolina, A.A., Fujishiro, S. (eds.): 2001)。原文は3部からなり、462行をもつ。オグドの韻文作品のなかでは最も長い作品である。

「幸もてる者」は帝政ロシア時代末期、社会主義革命前夜にシベリアの少数民族ドルガン族に生まれたバフルガスという幼名を持つドルガン人男性の生涯を語った叙事詩である。随所にシベリアのトナカイ飼育者らの生活をシャーマニズムなどの伝統的なモチーフを用いて描き、一方で、革命期の混乱、その後のソビエト政権確立後の民族の生活の変遷を記している。

ドルガン族の形成の歴史は細部まで明らかになっているとはいえない。とはいえ、ロシア人が主に17世紀以降、帝政ロシア政府の権力を背景にシベリアに侵出して以来の歴史は、断片的な場合もあるが文献として残されている。それらから辿ってもシベリアの民族集団の再編はあちこちで生じており、ドルガン族も複数の民族集団が再編された結果、形成された集団である。従って、ドルガン語にはその言語共同体の形成にかかわった人々のかつての使用言語の要素が数多みられる。このオグド・アクショールノワの作品の中にもロシア語やエベンキ語等の要素が多くみられる。後掲のドルガン語テキストの注においてはそ

これらの点についても言及した。

### 3. 2. 「幸もてる者」ドルガン語原文について

#### 3. 2. 1. 脚韻

「幸もてる者」は全 462 行、113 連からなる。大半の連が 4 行からなる。第 1 連 7 行、他に第 83, 89 連が 2 行、第 45, 77, 81 連が 6 行、他に第 96 連が 9 行からなる。ほぼすべての連が脚韻を踏んでいる。4 行からなる連の脚韻のパターンと頻度は以下のとおりである。

該当する連の数	82連	17連	3連	2連	1連	／106連
第 1 行末	A	A	A	A	A	
第 2 行末	A	A	A	B	B	
第 3 行末	B	A	B	C	B	
第 4 行末	B	A	C	C	B	

その他、4 行の連以外の 7 連は各々、以下のような脚韻を踏んでいる。

第 1 連：AABBBCC      第 83, 89 連：AA      第 45, 81 連：AABBCC

第 77 連：AAAABB      第 96 連：AABBBBBBB

「幸もてる者」が脚韻を踏んでいるのはドルガン語形成の基盤となったヤクート語の口承文芸オロンホ(英雄叙事詩)におけるのと同じである。オロンホにおいては時に頭韻も厳密に踏まれることがあるが、<sup>(3)</sup>「幸もてる者」においては頭韻はほとんど踏まれていない。

ドルガン語の韻文における韻の踏み方については、今後、チュルク系諸言語

---

(3) 以下にオロンホ「威風堂々たる独り者 Mugučij Är soyotox」の冒頭の部分を Kaparaev (1996) より掲げる。和文は拙訳。ここでは 3 行ごとの脚韻 (-İm, -İn, -GAR) と、3 行づつ頭韻を踏んでいる。↗

の韻文における韻の有り様に加え、周辺の他系統言語の韻の踏み方とともにさらに考察を加えねばならない。

### 3. 2. 2. ロシア語借用語彙

ドルガン語にはその形成に複数の言語が関わっているため、それらの言語からの借用語彙が多くみられる。ここでは「幸もてる者」に現れるロシア語借用語彙について言及する。既述のようにこの韻文作品は3部からなるが第1部が革命前の時代背景で描かれ、第2部は革命直後のソビエト政権が極北地方にも及んできた当時を描き、第3部が第2次世界大戦中の回想とその後のドルガン人の生活を描いているので各々に現れるロシア語借用語彙の性格とそれら語彙の借用形式に差異がみとめられる。ここではそれらについて述べたい。

#### 3. 2. 2. 1. 「幸もてる者」に現れるロシア語借用語彙

以下に文中に現れるロシア語借用語彙を各部ごとに掲げる。( )内は対応するロシア語彙である。<sup>(4)</sup>

---

↳ Bilirgī d'ilim	遠い昔の我が歳月の
Bistar mindaafin	切り立つ頂の
Bidan inaraa öttügär,	遙か彼方に
Urukku d'ilim	遠き我が歳月の
Oxsuhulaax uoryafin	競いあう山脈の
Otoj annaraa öttügär,	さらに彼方に
Aaspit d'ilim	我が過ぎ去りし歳月の
Anisxannaax ajdaannaax künün	寒風の中の騒がしき日々の
Ad'as anaraa tahaatigar,	ずっと向こうに
Kuopput d'ilim	駆け去った我が歳月の
Kudulyannaax kudan öltüü uoryafin	飽くことのない死の山脈の
Kuoharalaax xonnoyor	深き懐にいて

(4) 本項の借用語彙中の ja, ju, jo は、各々、ロシア文字の я, ю, е (ë) で表記される。転写について詳しくは本稿 p. 34 をみられたい。



## 第1部

molippa (молитва)「祈り」 -kiil (<rus. киль?)「櫓等の滑り木」<sup>(5)</sup> buospa (оспа)  
「疱瘡病」

## 第2部

Ujbaan (Иван)[人名] kolkuos (колхоз)「集団農場」 hūbā (совет)「ソビエト  
(議会)」 kommunis (коммunist)「共産主義者」 jakut komsomol (якут,  
комсомолец)「ヤクート人, 共産青年同盟員」 Osipov(Осипов)[人名]  
otjat(a)~otjad(i) (отряд)「部隊」 bukva (буква)「文字」 mahuorka (махорка)  
「マホールカ (安価な刻み煙草の一種)」 učuutal (учитель)「教師」

## 第3部

Nikiī (Николай)[人名] ostool (стол)「机」 belorus (белорус)「白ロシア人」  
tatarin (татарин)「タタール人」 buomba (бомба)「爆弾」 lūötčūk (лётчик)  
「飛行士」 samolet (самолёт)「飛行機」 haldaat (солдат)「兵隊」 bārdanka  
(берданка)「ベルダン銃」 raketa (ракета)「ミサイル」 Noroliskaj (Норильск)  
[地名] purga (пурга)「吹雪」 Sovet (Совет)「ソビエト」 gaas (газ)「ガス」  
Palagiāj (Пелагея)[人名] duoktur (доктор)「医者」 radiba (радио)「ラジオ」  
gazet (газет)「新聞」 nemis (немец)「ドイツ人」 kommunist (коммунист)  
「共産主義者」 biliāt(-tāāx) (билет)「証明書-[~を持っている者]」 sekretar'  
(секретарь)「書記」 partibiliāt (партилет)「共産黨員証」 partija(партия)「共  
産党」 Lenin (Ленин)「レーニン[人名]」 Buran (Буран)「ブラン」[電動  
櫓のブランド名] tabaagi (<rus.табак?)「煙草」 ispiiskā(спичка)「燐寸」  
privivka (прививка)「ワクチン」

「幸もてる者」に現れるロシア語借用語彙はそれぞれの部で語られている内容  
の背景によく即した意味内容を持っている。数の上でも第1部～第3部へと進

---

(5) kiil はロシア語からの借用である可能性がある。Пекарский(1907-1930)ではロシア  
語借用とされてはいない。

むにつれ、増えてゆく。

借用語彙の形式については <sup>(6)</sup>kommunis(2) ~ kommunist(3), hübä(2) ~ Sovet(3) のように部によって形式が異なるものがみられる。<sup>(7)</sup>主に第3部にあらわれる借用語彙形式はロシア語の綴りを取り込んでいる。<sup>(8)</sup>中には otrjat-a(2) ~ otrjad-i(2) (<rus. отряд [atrjät]) にみられるようにロシア語綴りを取り入れながらも揺れがある借用形式もある：前者は3人称単数所有接尾辞、後者は無人称名詞変化対格語尾が付加した形式である。

一方、比較的古い時代に借用された語彙の形式はドルガン語の音韻体系に沿った形式で借用されている。たとえば、上掲の hübä(2) については次の点を比較的早い時代の借用特徴として指摘できる：i) 語頭の s に対応する音として h があらわれている；ii) ドルガン語に本来的でない音 [v] を [b] で借用している；iii) ロシア語のアクセントが第2音節の e (前舌母音) に落ちているので、これを反映して母音調和をほどこした形式で借用している。<sup>(9)</sup>

さらに古い借用と思われる molippa(1) はロシア語 molitva の [v] を [b] に対応させた後、tb をドルガン語に合わせて [pp] に変えた。ここでは母音調和は借用形に反映されていない。<sup>(10)</sup>

---

(6) 語彙に続く ( ) 内の数字は部を表す。

(7) ロシア語 sovet「アドバイス、ソビエト(議会)」のヤクート語での形は sübä「アドバイス」、sovet「ソビエト(議会)」の2形に分かれている。

(8) ドルガン語正書法では新規に導入されるロシア語借用語彙については本来、ドルガン語にはない音を表すロシア文字([b], [e], [je], [je], [x], [z], [f], [x], [u], [ts], [u], [f], [t], [j], [u], [ja])の綴りのまま書き表すことを原則としている。しかし、ドルガン語話者は、たとえばロシア語からの借用語彙 самолёт (samoljot)「飛行機」を発音するときに、ドルガン語の音韻特徴である /s/ → [h]/# \_\_, V \_\_ V を適用し、[hamaljot]と発音することもある。

(9) ここにあげた借用特徴は ii) および iii) はヤクート語がロシア語語彙を借用する際にも見せる特徴であるので、i) がヤクート語を経由したロシア語借用形に適用された可能性もある。さらにヤクート語 sübä「アドバイス」が、チュルク語に本来的な語彙であり (cf. Пекарский(1907-1930); cybä), ドルガン語において、ロシア語借用語彙と混合してしまった可能性もある。

(10) ロシア語 molitva はアクセントを第二音節に持つので予想されるドルガン語形式はメ

「幸もてる者」にあらわれる借用形式にはその他にも固有名詞にロシア語借用が多々みとめられる。それらは各々、ドルガン語の規範を様々に反映した借用形式をもっている。

この韻文作品「幸もてる者」を貫くモチーフである「疱瘡病」はタブー語をさけるための借用語彙で表されている：buospa(1)。なお、「疱瘡病」を表すタブー語としては ämäxsin「老女、おばあさん」が使われることもある。これらに加え、ヤクート語では äd'ii「年配の女性、父方の年長の女性親族」を以て「疱瘡病」を表すことがある（Пекарский:1907-1930）。

#### 4. ドルガン語テキストと訳

以下にドルガン語テキストと和訳を掲げる。和訳は原文からの逐語訳であるので原文のもつ韻文作品としての特徴が損なわれている場合も多い。

転写：キリール文字基盤のドルガン語文字、ヤクート文字及び一部ロシア語文字などの転写は特に断らない限り、以下によった。

а = a	е = e	л = l	п = p	ф = f	ы = ĭ
б = b	ë = jo	м = m	р = r	х = x	ь = '
в = v	ж = ž	н = n	с = s	ц = c	э = ä
г = g	з = z	ң = ŋ	h = h	ч = č	ю = ju
ђ = γ	и = i	њ = n'	т = t	ш = š	я = ja
д = d	й = j	о = o	у = u	щ = šč	
дъ = d'	к = k	ө = ö	ү = ü	ъ = "	

---

↘ maliippaである。ロシア語語彙のアクセントの位置は概ね借用形式に反映される（例：haldaat（ロシア語 soldát））。古い時代に借用された形式であるとすれば、ドルガン形成に関与したロシア人のロシア語の特徴を反映しているのかもしれない。Пекарский（1907-1930）にはヤクート語へのこの借用形式についての記載はない。

I

第一部 老獺な疱瘡

Kohoonnorum, hähäännärim,

我が言葉よ 我が物語よ

<sup>(12)</sup>  
Ojuuktarim, tojuktarim.

我が生き生き描くものよ 歌達よ

Hürägim kaanin täbiilärä,

我が心臓を脈打つものよ

<sup>(13)</sup>  
Korđoj koku küömäjdärä,

喉元の空洞をとる声よ

İraak ajan irialara.

遠くツンドラに行く歌よ

Tuoktan, tuoktan kirbinniigit ?

いったい何処からやってきたのか

Tuogu öjdöön hanaatigıt ?

何を思って語ろうとするのか

His muorataagi öttügär,

ツンドラの果てに

<sup>(14)</sup>  
Mas kaltaabit hagamgar,

樹木の尽きるところの端に

Köhön kälän tüspüttärä,

ツンドラをわたり到来した

Ügüs kargän ätilärä.

多くの家々があった

Kihlilfir hirgä tijännär,

大地が色づく頃にやってきて

Küöllärgä ilim üttännär.

湖に網をしかけて暮らした

Karaņa kihün igajda,

暗い冬がやってきて

- (11) この作品「幸もてるもの」はドルガン語では未刊行である。ロシア語訳版の第1部のタイトルは直訳すれば「ばあさん疱瘡(疱瘡災難)」となる。「疱瘡」に前置された「ばあさん」(dol. ämääxsin)はエピチュットで尊敬や畏怖の対象となる事物についてドルガン人が頻繁に用いる。他に「じいさん」ähäを使うこともある。例えば、「ばあさん冬→冬ばあさん→冬將軍」「じいさん熊→熊爺さん→熊親爺」等。なお、第1～3部の副題はロシア語訳版に付されていたものの和訳である。

- (12) ojuuktarim, tojuktarim; ojuu「絵、絵画、模様、装飾」、toju「歌う、来し方を歌にする」; tojuktarim; ojuuktarim の toju は tojuktim「我が歌としたもの」と韻を踏むために挿入された可能性がある。

- (13) korđoj「空っぽの、中が空の」

- (14) kaltaa-「樹木がまばらになる」

(15)  
Kaan butugastii kojunna.

血の澱が沈むように深まっていった

Äräjdääk muṅnaak oloktion,

悪いことには不幸がかさなるもので

Äräj arakpat amattan.

この二つはどうしてもはなれない

Kallaantan d'ürü tüspütä?

空から降ってくるのか

(16)  
D'ürü ötöktön köppütä?

昔のたたりで地から出てくるのか

İallarga İariİ tunujda...

となりの衆も罹った...

Kahuon daa kihi İariİjda.

いったいどれだけの人が犠牲になるのか

Baaska battatan ölöllör.

疱瘡が出て 死んでいく

D'İälääktär hutaan ihällär.

家の者達は飢えていく

İallarga İariİ tunujda...

となりの衆も罹った...

Kolbogo mas tijbät buolla.

箱に木を立てた

- Abİraa, taṅara - diİllär.

神様お守りくださいと皆で祈る

İariİ toktuurun küütällär.

病がおさまるのを皆 待っている

Bihiktän in'ätä arakpat,

揺りかごから離れない母がいる

Ogoto amattan ämpät.

その子はもう乳を吸わない

- Allara İallar İald'allar.

「病気になるのは川下の人たち」と

Kistään hipsijär ol d'aktar.

母はこっそりささやいてみる

Oččogo diäččilär İariİ,

その時 病がやってきて

Baraačči oluru kördüü.

母と子を見つけ

---

(15) kaan butugastii 「トナカイの血のスープ」

(16) ötök 「かつて誰かが住んでいた場所のこと、廃墟」

(17)  
Ikkihin öñös gïmmïta,  
Ogoto biſtan kaalbïta.

二人に目をやったかと思うと  
その子はこと切れた

İallarga iarïï tunujda...  
Hirga doskoto orpoto.  
Hajtaanğa ahï biärällär,  
(18)  
- Bugaat abirïa, - dähällär.

となりの衆も懼った. . .  
櫓の板を剥がして  
サイタン (家神様) にお供えをしている  
何卒お助け下さいと言いつけている

İallarga iarïï tunujda...  
Kird'agas, ogo diäbätä.  
(19)  
Taňahï, übü alastaan ,  
(20)  
Molippa aagallar aartaan.

となりの衆も懼った. . .  
老人も子どももしゃべらない  
服も道具もお祓いして  
ただお祈りの言葉を繰り返すだけ

Kantan kim kälän abirïaj?  
Ölüünü kim batan iitïaj?  
Kihi anara baranna...  
Kohuon daa açaak utujda...

どこから誰が助けに来てくれるというのか  
死を誰がやっつけて追い払えるというのか  
もう半分ぐらいの人が死んでしまった. . .  
いったいどのくらいに籠の火が消えただろうか. . .

Kün tüspütä. Karaňarda.  
Hirdikpit maabit ustata.  
İraaktan hirgalaak källä,

日が沈んだ 暗くなった  
光は投げ縄の長さに短くなった  
遠くから櫓がやってきた

(17) öñös gïmmïta 「さっと見回した」 cf. -s (-x, -k) + gïn- で「瞬間的一回性」をもつ動詞を形成する。

(18) bugaat (強調の叙法詞) ここでは「死から絶対に救ってくれ、病を是非とも逃れさせてくれ、今すぐ助けてくれ」の意になる。

(19) alastaa- 「燻蒸する、バチがあたらないように消毒する」

(20) molippa <rus. molitva 「祈り」 cf. moliitba - molitpa - molippa 母音調和は満たしていない。

Ogonn'or utarī barda.	老人が迎えに出た
Kīrd'aa iliitin uummata,	老いた手を差し出すことをせず
Tīaltan allara turunna,	風下に立って
Īarīī hīstīmīan īald'īkka.	病が客に当たらないように
(21)	
Mānjāstān barīmīan īallarga.	傍から客へ感染らないように
Ologun barītīn kāpsiir,	一同の状態話をしている
Hūrāgā īgajan ītīir.	心に迫ってきて泣いている
- Tūrgānnik mantan barbaktaa,	すぐにここへ入ってきてはいけない
Kim - daa kālbātin, ildittā.	誰も入ってこないように伝えなさい
- Barībīt utujar kōrdūkpūt,	私達は皆 こんな風に眠っている
Anīkaan uonča ortubut,	今のところ生き残っているのは10人ほどだ
Tugut tōrūrūn inninā,	(トナカイの) 産月のすぐ前になったら
Kaalbītī kāliŋ karaja.	残った者達を埋めに来ておくれ
-O! Bīīhaa, abīraa, tanjara...-	ああお助け下さい お救い下さい 神様...
Hīrgalaak kūrājin kapta,	櫓の人はホレイ杖を握んだ
N'onuhut tabatīn asta,	先頭のトナカイが過ぎていった
Karagin uuta būrūjdā.	その目は涙で一杯だった
Huol ūstūn, kīrd'aa algaata,	老人は道中の無事を願い
Ūstā kat onton ūŋūnnā.	3 回唱え 祈った
- Haatar āhiākā kūn tīktīn,	「おまえ様方の上に太陽が出てくるように

D'ollook olokto biärdin.

幸せな暮らしが与えられますように」

Tabalar ürpüttüü köttülär.

トナカイたちは飛ぶように走った

Tuogu daa körböt buollular.

無我夢中で疾走した

İtüllar taajan tabalar.

嘆きを察したのだ トナカイたちも

İtüllar kaalbīt kihilär.

人々はただ泣くばかりだった

Hirga kiilä kičigiriir,

橇の底骨は音を立てて軋んだ

Ogonn'or haŋatın öjdütür.

老人の話を語っている

Hir in'ä baraksan itiir,

母なる大地は大いに嘆き

Ot, mas barıta d'iriiriir.

草も木も皆 すすり泣いている

- İallarga İariı tunujda...

となりの衆も病にやられた...

Hirgalaak tijän kapsäätä.

橇の人は帰り着いて、話した

Allaak tabanı költinnä,

元気の良いトナカイを繋ぐと

Ojuŋŋa härätä kötüttä.

シャーマンに知らせに駆けて行った

Üs künü ojun tärinnä.

シャーマンは3日間というもの準備した

(22)

Turari, turbatı musta.

あれやこれやを集めた

(23)

Uraha d'iani tuttular.

ウラハの家が建てられた

(24)

Löčüöktär innigä kiirdilär.

地唄衆が中に入った

---

(22) tur-ar-ı, tur-bat-ı 「(直訳) 立っているものを、立っていないものを」「(意訳) あれやこれやを」

(23) Uraha d'iani tuttular. 「ウラハの家が建てられた」. ロシア語の不定人称文と同じ構文(目的語[対格]+3人称複数形動詞)で、受け身表現となっている。

(24) löčüök 「シャーマンの歌を繰り返して歌うグループ、地唄方」



Äriän kuogahün iğirda.	斑なアビがつれてこられた
Kuogastii üögülään barda.	アビのように叫びだした
Tallan kuogastii tallajda.	斑のアビとなって羽根をひろげ
Uraha d'ia kötö hiišta.	ウラハの家を飛び出ていった
Üörün kīirari komujda.	シャーマンは儀式をして群れを集めて
Iirākii atīirdii möntö.	狂った雄馬のようにのたうち回り
Kutujak buolan hībīrgiir.	一声あげると北極ネズミに身を变えて
Kihini baritūn hūllīir.	そこらの人を嗅ぎ回る
Dünjūrtin ogusta. Ojdo.	シャーマンは太鼓を打ち鳴らし飛び上がった
Küömājā boskotuk barda	その声は朗々と響く
- Alaāj, alaj; Alaāj, ..	アラエイ アライ アラエイ...
İariīni allara halaj ...	病は下界へ追い払え...
(25) Kīiran hāniätä baranna.	(25) カムラニエに憔悴し切って
(26) Pūlt gīna hīrgä olordo.	忽然と地面に座り込んだ
Onton üögülūtū kuogastii	それからアビのように叫び声をあげる
- Kīajbatīm, kīajbatīm.. - di-di.	駄目だ 駄目だ 私には無理だと
Māniitin tuura bulkujda.	なかなか正気にもどらない
Ačaak diäk hīgarik ünnä.	寵の方へ這って行って
Kihil čoktoru uobalīir.	赤い燃えがらをいくつも口に放り込んだ

(25) kīir- 「シャーマンが交霊等を行う」; シャーマンの交霊等を камлание 「カムラニエ」とロシア語でいう cf. Фасмер (Эт.): калмать Из чагат. kamlamak. ファスマーによれば、ロシア語 калмать はチャガタイ語の kamlamak (意味は同じ) から。

(26) pūlt gīn- 「突然、忽ち、大変素速く～する」

Köksütä kiillii kakiniir.	喉が野生トナカイのように軋む声をあげた
Kihi barita oduurguur.	人々は皆 固唾をのんでたたずんでいる
Ojun čoktoru uobalir.	シャーマンはなおも燃えがらを放り込む
Onton bu hircä tönünnä.	やがてこの世に戻ってきた
Kuturan bugurduk ättä:	節回しをつけて語るには：
“Ulakan ojun baar ätä.	昔 えらいシャーマンがいた
Huraktaak, aptaak buolbuta.	名高く術に長けていた
Gini huolun kim-daa bīspat,	その道を遮る者はなく
Kün diäki öttünän aaspat.	太陽もはばかりくらいだった
Ogdubaa buolan. Biir kiihü,	独り者だったので ある乙女を
İlaari gımmıta ühü.	嫁にしようと思ったという
(27) Ontuta ataginän barbīt,	ところがいざ出かけてみると
Dıäitittän kürään kaalbīt.	乙女は家から逃げてしまっていた
- Ogoŋ ogotugar käliäm	おまえの末代まで出向いて
Uokkuttan amattan ututuom.	おまえ達の竈の火を消してやる
Ol ihin iariini iippit.	それで病を送り込んだのだ
Ojun hanaata käjbit.”	そのシャーマンの呪いがかかっているのだ

(27) ontuta cf. Пек. онт- [указательное местоимение от он; ср. ман] употребляется только с притяжательными приставками: онтум, онтуу, он то, онтулара - то мое, то твое, то его, то их. [指示代名詞で所有接辞を付した形でのみ使われる: ontum「私のそれ」, ontuŋ「君のそれ」, onto「彼のそれ」, ontulara「彼らのそれ」] 本来, ontoとなるはずの形式が ontuta として現れているのは ontu を語幹とみなした再解釈があったのではないか。「彼の彼女は逃げた(選ばれた彼女は家から逃げてしまった)」

Kihi barīta ihilliir,	人は皆 じっと聴き入っていた
Ojuntan kōmōnū kōrdūūr.	シャーマンに何とかしてくれと頼んでいる
- Bihigini haatar bīhaar,	せめて私達は救うようにしてくれ
Ölütünü batan iītaar.	死をやっつけてどこかへやってしまってくれと

O! Īallarga ĩarīī tunujda...	ああ となりの衆が罹ってしまった. . .
Barī d'on kūrānān kōstō.	人は皆飛んで逃げていった
Īraak kurpaaskī kōtōrdūū,	遠く雷鳥が飛んでいくように
Hippātin irā ol ölüū.	追い払えないのはこの死のみ

Ūrpūt tūr kōrdūk targačči,	吹き飛ばされた群れのように広がって
(28) Kōs huola čakalīčči .	あちこちに足跡がこんがらがっている
Buospa - āmāāksin kähājdin.	老獺な恐ろしい疤痕よ 呪われよ
Huollari irdāān munuoktun.	あちこちに伸びた足跡に迷ってどこかへ行って しまうがよい

O! Īallarga ĩarīī tunujda...	ああ となりの衆が罹ってしまった. . .
Barī d'īā iččitāk buolla...	どの家も空っぽになってしまった
Hūrdāāk hutaan olorollor.	気味悪く崩れ落ちている
Ölör diāk irā haniīllar.	今はもうことされるのを待つのみ

Kim ölüör kūn aaĵi masīīr.	死に類した人が毎日 薪を割っている
Nōñjō abīratan naastīīr.	かろうじて助かっている状態で薪を作っている
Kännigā kaalbīt kīhiākā,	後に残る者のために
Bagar hīīia kīammakka.	救いもなく横たわることになる者のため

---

(28) čakalīčči「(放牧の移動痕が) こんがらがっている, もつれている」

Haatar üljän ölbötün,  
äräji körbütün ihin.  
üördärä hürdääk ıraappit,  
mäktiätin uhuu buolbut.

せめて凍えて死ぬことがないようにと  
そんな不幸があるのを知っているからだ  
(トナカイ) 群れは恐ろしく散らばり果てた  
野性化してしまうものもある始末だった

Aakular ätä hild'allar,  
Tulajak tugut kördüktär.  
Kännigä d'aktar orputa  
Onton biäs d'illaak ogoto.

馴鹿たちは声をあげて鳴いている  
捨てられた仔のようになってしまった  
後に残された女がいた  
傍らには5つの子どもがいる

Ölbütü biir d'iägä munn'ar,  
Baliktü topon ihär.  
Kün uota tigarin kitta.  
Ogotun igiran diäbitä.

死せる者達を一つの家に集めた  
魚のように凍ってしまった  
日の光が差し込んで来たとき  
子どもを呼んで言った

-Uokkun kaalaa. Ututuma.  
Itinän hanata bihinna.  
Korgujan uol ogo iüür.  
In'ätin turuora haüür.

おまえの火を大事にしろ 消してはいけない  
そう言い残すと母はこときれた  
息子は飢えて泣いた  
母を起こそうとした

Hägärim, kim an' tapt'aj ?  
Kim boskuoj tanah' tigiäj ?  
İtaan häniätä baranna,  
Hilajan utujan kaalla.

かわいそうに今となっては誰が愛しんでくれようか  
誰がきれいな服を縫ってくれるだろう  
泣き疲れてしまつて  
泣き寝入りに寝てしまった

Turbuta uota utujbut  
In'ätä kam topon kaalbüt

目が覚めると火は消えていた  
母はすっかり冷たくなっていた

Ahian bagaran kostonor,  
( 2 9 )  
Busput ättäri bordonor.

お腹が空いていることに気がついて  
煮た肉を片端から食べた

Buolaktan toj äti bulla,  
Tiihinän tiniktään kirdä.  
Tonjon huorganja huulanar,  
Okton karaga biilänär.

外に出て 凍った肉を見つけて  
歯をたてて骨からむしりとってかじった  
冷たくなった布団にくるまり  
疲れきったその目をつむる

Mas töbötüttän kün ojdo.  
Källilär kihilär bilsä.  
Ït daa ürärä billibät,  
Utarï kim-daa taksibat.

木の頂きに陽がかかるようになった  
人々がやってきた  
犬が鳴くのも聞こえず  
誰一人として出てくる者もない

Uol ogo kihini körön,  
Orun annïgar kistänän,  
Mummut kaas ogoto buolbut,  
Kihini bilïr umnubut.

あの子どもは人を見て  
寝床の中に隠れてしまった  
迷い子になった鴨の子のように  
人のことを忘れてしまったのだ

Huraktan hurak buolbuta,  
Käpsältän käpsäl tijbitä.  
Hiäbitä buospa urduhu,  
Kääspitä hogotok ogonu.  
Bu ötök hirdärgä kim-daa  
Hugastïï tüspät anï-daa.

人から人へと語り継がれ  
話が伝わっていった  
猛威をふるった疱瘡が  
たった1人 子どもを残したのだ  
この廃墟のあるところには誰1人  
未だに近づこうとはしないという

---

(29) bordon-「食べ物を選び好みしない、何でも片端から食べる」

## II

## 第二部 バフルガス

Tulaajak ulaatan ispitä.

みなし児は育てていった

Tihiliit halaan iippitā,

雌鹿がするように育てているのは

<sup>(30)</sup>  
Kiičaa aattaak in'ätä,

クウチャという名の母だった

<sup>(31)</sup>  
Ujbaan buolbuta agata.

ウイバンという名の父だった

- Ölüüttän kistään, - diillär,

死に取り込まれないよう隠さねばと言いつけて

<sup>(32)</sup>  
Bahırgas di-di aattitllar,-

バフルガスという名をやがてつけた

İt ügüs Bahırgas aattaak,

犬によくある名前である

<sup>(33)</sup>  
Tiiinnaak hiritün muḡnaak.

生きて哀れな者という意味である

<sup>(34)</sup>  
Hiittänär buolbut kämigär,

漁の網が張れるようになった年

Hırgaga miınär d'İlgar.

櫓をあやつれるようになったその年のことだった

Iıppit, taptaabit tääätätä,

育ててくれた愛しい父が

Tistii, tirilii hüppütä.

忽然と毛が吹き飛ぶように消えてしまった

Bahırgas hıptu küüppäliir,

バフルガスはずっと待っていた

Hırgalaak üahın ihilliir.

櫓の音が聞こえてきて

Tääätätä amattan kälbat,

やっぱり父は帰ってこない

İttara kiähännän ürbät.

晩になっても犬が鳴くことはなかった

(30) Kiičaa「クウチャ」は養ってくれた母の名前

(31) Ujbaan「ウイバン」は養ってくれた父の名前 [Ujbaan <rus. Иван「イワン」].

(32) Bahırgas「バフルガス」は孤児の男の子のあだ名。幼い子供に厄災除けのおまじないとして故意に縁起の悪い名をつける風習がある。「生きて哀れな者」の意。

(33) muḡnaakは「苦勞の多い」を表すが、人に呼びかける時につけ、親愛の情を表す。cf. Bahırgas, muḡnaak!「バフルガス、いい子、かわいい子！」

(34) hiittänär「ヒート仕掛け漁をする」hiit「ナリム(かわめんたい)やカマスやクンジャ(あめます)をとる漁具」[hiittänär = hiit+-tää (動詞形成接辞-LAA) + -n (再帰態接辞) + -är (3sg.pres.)「ヒート仕掛け漁をする」]

Biirdä Bahırgas oonn'on,	ある時 バフルガスは遊んでいて
Algaska käästä kaarinan,	うっかり雪玉を投げたとき
Baaj uolun atagin tapta,	金持ちの息子の足にあたった
Ubaja kobuluu ojdo.	その兄が怒って飛んできた
Baaj kaana d'äbinnii öttö,	金持ちの血はどす黒い
Uol ogo kulgaagin kapta,	バフルガスの耳をば掴むと
Kappit, ullunnuu muskujar	靴をひっくり返すかのようにもみくちゃにした
Ogotun Kiičaa bild'ahar.	クウチャは子どものところへ飛んでいく
Onton ogotun aart'ir,	それから子どもに言って聞かせる
Kaanin orgujakaan hotottuur.	血をそっとふき取ってやる
Kiähännän ıallarga käpsiir,	晩になって近所の衆に話しをした
Baajdarı hürdääk kohuluur.	金持ち達をかんかんになって非難した
- Ogoto bäjätin bappit,	あんな子どもはろくなことがない
Abaahı tiriitin kappit.	悪魔が毛皮を着ているのさ
Üdümär, bačča haahıttan, <sup>(35)</sup>	あんな若いうちから嫌なやつさ
An'aga biłir hitıjan. <sup>(36)</sup>	もの言いだつてろくでもない
Bahırgas turbutun kännä:	バフルガスは大人になった
- Kohus, - baaj Boldos diäbitä, <sup>(37)</sup>	一緒にやらないかと金持ちボルドスが言ってきた

(35) üdümär bačča haahıttan「若い頃から(小さい頃から、このころから)邪悪だ」; üdümär 「邪悪な」「血も涙もない」

(36) an'aga biłir hitıjan「言葉使いが悪い、汚い言葉を使う」の比喩的表現。逐語的には「彼の口は恐ろしく腐っている」

(37) Boldos「ボルドス」(金持ちの名前)

- Uonča tabata ülüülüöm,  
Timir hügäbin gäriästäim.

10 頭のトナカイを貸そう  
うちの鉄の斧も借りてくれればいい

Kiřčaa aartahar uolun:  
- Boldos řit-kihi. Bilägin ?  
Köröör, albinnia äninin,

クウチャは息子に言って聞かせる  
ボルドスは犬畜生のような者だよわかっているのかい  
見てごらん おまえのことを  
だまくらかそうとしているのさ

Töläö huok äräjgin, munjun.

ちゃんと支払おうなんて気はないんだから  
おまえが目を見るだけだよ

Kühün. Kaar tüstä. hir tojno.

秋になった 雪が降ってきた 寒くなった

Tulaajak ärgijän källä.

みなし児のバフルガスは戻ってきた

Ikki baltita üörällär,

二人の弟は大喜びだ

Töhökkö haba tühällär.

とにかくバフルガスに抱きついた

Aan diäk oloočču ataktar,

扉の所に短靴が

Hälalar kördük hitallar.

イトウ魚のように脱ぎ捨てられて

İrän kajagas appaņnīř,

穴があいたままころがっている

Onon ugunn'a bīltaņnīř.

(39)

そこから靴底がだらしなくのぞいている

Bähirgas tuok diäj. Haņarbat.

バフルガスは何をか言わん ただ黙するのみだった

Hirgata dar mas. İččitäk.

櫓には積み荷一つなく空のまま

In'ätä barřtin taajar,

母のクウチャはたちまち飲み込んだ

Hürägä buustuu řgajar.

心は冷え冷えするばかり

(38) taba-ta; -taは分格接辞。ヤクト語では通常、命令文にのみ使われる分格が、ドルガン語では平叙文にも使われる。「10 頭ほどのトナカイを私は分配しよう」

(39) bīltaņnīř「のぞいている、見えている」?; cf. Stachowski (1998) byltaņā- “[z.B. durch das Fenster] hineinschauen, reingucken”



Onton huraktar buollular.	やがて 知らせが届くようになった
Ĵjaak ularĴjda dāhällār.	世の中が変わると皆が言い合っている
KĴhĴn Ĵstanuok tāřillān.	冬になって指令が届いた
Tūūn, kūnūs Ĵuohunan aaraan.	夜といわず昼といわず獵道を通じて伸びていった

N'uuĴĴalar d'onu komujan,	ロシア人がやってきて皆を指導して
Kolkuohu tĴaga tāřĴjān.	コルホーズがツンドラにも組織され
BahĴrgas biirgā hĴld'Ĵhar,	バフルガスも加わって
Hūbāni, munn'agĴ tāřĴjsār.	ソヴィエト会議や委員会が作られた

Barankin - D' <sup>(40)</sup> ānĴhiāĴ kupeha	バランキンという名のエニセイ川あたりの商人が
Kūrāān Noskuo <sup>(41)</sup> ga kālbitā.	こっそりハタंगाに入り込んできて
D'onu butugastĴ Ĵirpit,	人々に賄賂を渡して取り込んで
Uogun bu Ĵirgā tahaarbĴt.	この土地に大変な力で勢力を張っていた

Kara hanaatĴn kistiir,	腹黒い狙いは面に出さず
Kommuniska tĴihin katĴĴr.	コミュニストにも歯をむき出さず
Biirgā munn'agĴ oĴorsor,	ある時 会議に出て来て
AūĴhĴt buolan hĴld'Ĵhar.	商人も一緒に参加した

Onton huol aara ōlōrtūūr.	それから道中のあちこちで人殺しが起こるようになった
Horogu anaan ārĴĴĴir.	何人も不幸な目に遭う者が出た
Jakut komsomol hūppūtā,	コムソモールのヤクート人がいなくなった

---

(40) D'ānĴhiāĴ「ジェニヒエイ」はエニセイ川のドルガン人による呼称。【ロシア語の軟母音 e はしばしば有声破擦音で借用される。また母音間で s は h に変化するののはヤクート語と共通】

(41) Nouskuo “Xatanga”「ノスクオ」は現在のハタंगा(区)を指す。

Bahīrgas dogoro ol ätä.

バフルガスの友人だった

Dulgaannar hin biir hakalar,

ドルガン人とヤクート人は同じだ

Osipov haqatın iställär.

オシポフの話をよく聞いた

Bihīīnī - hīīīnī bilbitä,

振る舞い方もよくわかっていた

Ütüögä d'onu tarpīta.

良い方向へとみんなを引っ張ってくれた

Komsomol otrjadī tärījdä.

コムソモールの捜査隊を出した

Bahīrgas ämiä kördöstö.

バフルガスもちろん探した

Töñürgäs aajī kötütär,

切り株ひとつひとつを見て回り

Čäkčäkää buoluo oñojor.

盛り上がったところがあればひっくり返して調べた

İalī barīīn baraata.

近隣をくまなくしらべ

Haaskī huollarī kərijdä.

春の地面についた足跡を調べて回った

Manna turuulaan turbuttar.

と そこに途切れたところがあつた

Üs kihi ätä äbittär.

三人が居たはずなのに

Bahīrgas huolların irdiir.

バフルガスがその足跡をつけていくと

Kömükkä biilinän hötölölütür.

深い雪の中に腰までつかって行った

Tuok irä manna buolbuttar ?

ここで何をしていたのだ

Añīīrdīī karsan möñpüttär.

雄獣のように争った跡がある

Ikki huol mantan tönnübüt.

二人分の足跡はそこから戻っている

Osipov bu hīrgä ölbüt.

オシポフはここで死んだのだ

Bahīrgas kaarī tabalīī,

バフルガスはトナカイのように

Dälbi täbistä kahīīlīī.

夢中で叫びをあげながら雪を掘り返した

O! Bu hītar dogoro. Bulla.	ああ そこに友が横たわっていた やっと見つけた
Körön karaga karaarda.	その目は黒ずみ
Hīrajīn dālbi kājbittār,	顔は傷だらけだった
(42) ūñüünnār batari aspīttar.	あいつらが刃物で突き刺したのだ
Äjägäs, öjdöök uol ätä.	気だての良い頭の良い若者だった
Barī d'on gini diäk buolbuta.	人々が皆 集まってきた
Kījjanan Baraankin baandata,	口々にバランキンの一味を非難し
Tordoktuu ūīra tarpīta.	隠された陰謀が明るみに出た
Kaariān Bahīrgas dogoro,	カーリエンという友達がいたが
Hītar kaarga tibillā.	やはり吹雪の中に雪の上に倒れていた
Kojut komsomol otrjata	すぐにコムソモールの捜査隊がでて
Baandani hin biir, hippitā.	やつらを捕らえることが出来た
Boločanka oñuor, kočogo.	ボロチャンカの小高い丘に
Kostor Osipov oñuoga.	オシポフの遺体が埋葬されている
Ügüs kommunist ölbütä.	沢山の коммуニスト達が命を落とした
(43) Itinnik aajdaan turbuta.	こうした争乱の時があったのだ
Bahīrgas körör biliätin,	バフルガスはその人の知恵を見てきた
Öjdütür Osipov hañatīn.	賢かったオシポフの話しを思う
Kahuon da kiähāni mald'i,	幾晩を共に過ごし
İjan biärbitä bukvani.	文字を覚えてくれたことだったか

(42) üñüünnār; üñüü 「槍」-n-? -nār (pl.)

(43) aajdaan 「 коммуニスト達の死について動揺し、(多くのことが語られ、人々は良い人物等の死について憤慨した)」

Ani Bahīrgas oloror,  
 Mahuorka tahīgar hurujar.  
 Tīllari tahaara haīūr,  
 Kaarga bukvanī ojuuluur.

今 バフルガスは机に向かい  
 マホルカ煙草の紙に文字を書く  
 言葉を書き連ねようとして  
 雪の上にも文字を書く

(44)  
 Hajin hinnālii bukvalar,  
 Kumak ihigār hītallar.  
 Onton učuutal kālbitā  
 Ulakan üöräk turbuta.

夏にはそういった文字を  
 砂の上に書いてみる  
 やがて先生がやってきた  
 大切な学びの時間が始まったのだった

### III

(45)  
 Nīkīīnī kitta Bahīrgas,  
 Ostoolloro toloru as,  
 Kīrd'an baraan kōrūtīlār,  
 Onu - manī kapsātīlār.

### 第三部 出会い

ヌクーとバフルガスがいる  
 テーブルにはご馳走が一杯である  
 年をとって久しぶりに会う二人である  
 あれこれ 話すことが一杯ある

Bahīrgas hāriigā ātā,  
 Äñin äräji kōrbūtā.  
 Belarus dogoron kitta,  
 Biirdā plenṇa tūbāstä.  
 - Uhuu tabalīi ojbuṇṇut,  
 Tahīčči kūrāan kuōppuṇṇut.

バフルガスは戦争に行った  
 いろいろ大変な目に遭ってきた  
 白ロシア人の仲間と一緒に  
 ある時 捕虜になった  
 野生のトナカイのように逃げ出したんだ  
 逃げて逃れて 結局逃げおおせたのさ

Onton atagin taptarbīt,

それから足に弾が当たったこともある

(44) hinnālii「文字を並べて書き連ねて、読み書きを習って」

(45) Nīkīī「ヌクー（男性の名前）」(Nīkīī < rus. Nikolaj「ニコライ」)

Krillii kaana ustubut.

Tatarin kätit argaha

Atfii hügän ilpitä.

野生の大鹿みたいに血が長く引いて流れたさ

タタール人の友達が大きな肩で

馬にさせるみたいに背負ってくれた

Ätiñnii ätän aaspita,

Kihi umnubat häriitä.

Biñil belorus dogoro,

İgiran aktan körtistä.

雷が落ちるように猛烈に過ぎていったが

人間はあの戦のことは忘れられないさ

今年 その白ロシア人の友達が

誘ってくれたので会いに行ってきた

Öjdüür buomba tiärbitin,

Hir - in'ä bilirgi ätin.

Ani guorattar turbuttar

Mastar kögöron üümmüttär.

爆弾が降り注がれたのを覚えているし

その大地の昔の様子を覚えているが

今や あちこち街になっててさ

樹木も育ち 緑も豊かだったよ

( 4 6 )  
- Atagim irä hontuta,

Onuoga uhaan üümmätä,-

diän Bahırgas kurutujar,

Ataga kömüllään iald'ar,

Baliktii karaga himpät,

Horok tüünü utujbat.

こちらの足ばかりはやっぱり駄目だね

骨がどうも良くなりはいしないよ

と言ってバフルガスは哀しげである

足が痛んで辛いことがあるよ

魚の目のように目がつむれないんだ

時々 眠れない夜がある

Onton koloruktan illa

Uolun külügün köllördö.

Tuollubut körünnääk lüötčük

Samolet atfigar turbut.

それから 棚から持ってきて

息子の写真を見せた

一人前のパイロットになって

飛行機の傍らに立っている

Bahĩrgas hĩraja tātārār,  
Ogotun aktan ĩmajar.

バフルガスの顔は赤くなって  
遠くの息子を愛おしんで微笑んでいる

Nĩkĩĩ uola ĩraak hĩld'ar,  
Haldaat buolan huruk ĩĩtar:  
- Bārdankani bilbātāgim,  
raketaga ũōrānābin.

ヌクーの息子も遠くに住んでいる  
兵役に出ているが手紙をよこした  
ベルダン銃なんて知らないが  
ロケットのことを教わっていると

Ulakan uola tabahĩt,  
Bĩĩĩĩĩn ordenĩ ĩlbĩt.  
Kĩĩha guorakka olootook,  
Nĩkĩĩ ĩallana barbĩttaak.

長男はトナカイ飼育者だ  
去年 表彰された  
娘は街住まいで  
ヌクーは遊びに行ったりする

(47)  
Noroliskajĩ bilbitā,  
Tabannan tardĩĩ tarpĩta.  
(48)  
Pilikaj purgaalaak hirdār,  
Kihini tiũlũũ kötũtār.

ノリリスクを知っていた  
トナカイを連れていく道筋だった  
ものすごい吹雪の吹き付けるところだった  
人間なんて毛のように吹き飛ばされそうだった

Ōjdũtũr ol ajan hĩĩĩĩĩn.  
Kānnikii hātii tabafĩn,  
Muostarĩn amattan kōrbōkkũn,  
Hĩrga da ũrdũgār turanĩĩn.

どんな道だったか覚えているさ  
最後の櫓のトナカイだって  
その角さえ絶対に見えないよ  
たとえ櫓の上に伸び上がったってね

Onnuk čaattaak karaņa.  
Tĩmnĩĩĩ tĩmnĩĩ diābākkā

そんなふうにもうろうとした闇の中さ  
寒さをものともせず

---

(47) Noroliskajĩ「(地名)ノリリスク」(ドゥジンカ区にある工業都市)

(48) pilikaj「大変強い吹雪、ほんの少し先も見えないくらい強い吹雪」

Maŋnaŋgi Sovet ologo,  
Kiŋaanak hiriŋlaak ätä.

最初のソヴィエトの暮らしは  
厳しくて大変だったさ

Ani samolet üksäabit,  
Tahagas tahiŋta älbäabit.

今では飛行機も増えたし  
貨物も随分 届くようになったよ

Bihigi hirbit hir kördük,  
Töröön ulaappit bihikpit.  
Buruja buolbatak karaŋa,  
Timniŋta kolommot horgo.

私達の大地もまた他の大地と同じく  
私達も大きく育って来たものさ  
闇そのものが悪であったとは言うまい  
闇がそのまま不幸だったわけではない

- Höktüm, - diätä, - ulariŋbitin  
Ulakan guorat buolbutun.  
İraak kögörör kajani,  
Aračči taajbıta Nikii.

驚いたね 様変わりだねと言った  
大きな街になったものだ  
山がやっぱり青く見えるから  
何とか昔の面影がつかめるねとヌクーが言う

Massina barıta kanıi,  
Kün aaji hirsii da hirsii.  
İlä tibiilii kaar kötör,  
Känniläritän burgajar.

車はどれもこれも  
毎日 走り抜けていく  
まるで吹雪のように雪が舞う  
後には霞がたっている

Burua gaahi ühüs uola,  
Hitimnii hirtän hubuja.  
Bilir Nikii bu buruottan,  
Kürämmitä kuttanan.

三番目の子はガス関係さ  
大地にガス網を建設してねとヌクーが言う  
昔だったらそんなガスなど見たときには  
逃げ出して大騒ぎだったよ

Äbäkää d'ätä diäbitä,

熊の住処に違いないって

(49)  
Tuora mahi birakpita,  
Onon kilii tardispit,  
Kan'ispakka kötuppüt.

斜めに木をおいて通せんぼして  
うっかり 踏み込まないように  
とんで逃げてかえたものだった

İallar östön kuttanannar,  
Hürdaäk iraak köspüttär.  
Ani horok tiataagilar,  
Ol gaahinan astanallar.

みんなそうして口にも出さず怖がった  
とにかく速く速くに逃げた  
今じゃあ ツンドラのもんなも  
このガスで料理をしているんだからねえ

Ügän käpsätii ihigär,  
Palagiäj ämääksin kiirär.  
- Kaja, kalin bihiäkä,  
Kiihim kiiha tönünnä,  
Duoktur üörägin bütärdä.  
Tanaspar kataabit timägä.  
Tuurata tulla iliginä,  
Körögüt, bilir ärgijdä  
Hirigär ülälü källä.

話しが盛り上がっているときに  
ベラゲヤ婆さんがはいってきた  
おおい うちへ寄っておくれよ  
孫娘が戻ってきたのさ  
医者勉強を終わってね  
私の着物にあの子が縫いつけたボタンがさ  
まだ千切れるずにいるうちに  
聞いておくれよ もう帰ってきたんだよ  
こちらで仕事するっていうんだから

Ani Bahirgas oloror,  
Palagiäj kiihin kiihigar.  
Öjdüür tulajaak buolbutun,  
Kiičaa in'ätä iipitin.

今 バフルガスは卓について  
ベラゲヤの孫娘に話してきかせる  
孤児だった昔のこと  
クウチャ母さんが育ててくれたことを

---

(49) tuora mahi birakpita「斜めに木を投げかけて」；天然ガスが出ているのを畏れて、後から通りかかる人が近づかないように通せんぼの意味で木の棒を道に斜めにおくことがあった。





Ädär komsomol bihiilaak.	コムソモール証保持者である
Bahırgas oostoolgo källä,	バフルガスはテーブルに戻ると
Sekretar' attıgar turda.	書記長の側になった
Partijnij biliätin illa,	党の証明書を出した
Arıjda, hapta, ilbijda.	開いて 閉じて 埃を払った
Muñ küçümägaj künnärgä,	本当に大変な時代だった
Partija äranän biärbitä.	党は希望を与えてくれた
Kottorbot hanaa kïajbitä,	うち勝ちがたい思想があった
Bahırgas tünnaak kälbitä.	バフルガスは生きて戻ってきた
Partibiliät gini bihiütin,	党員証は彼の人生について
Öjün, ülätin, ologun,	知識 仕事 生活について
Katıı arıjan biärbitä,	繰り返し 道を示してくれた
Ulakan kômöhüt buolbuta.	大きな助けとなってくれたのだ
Partija ügüs horugun,	党の多くの課題を
Hitärän bihaaran ispitin.	迅速にやり遂げてきた
Bahırgas anı muñ d'ollook,	バフルガスは今とても幸せを感じている
Ügüs ärabıl ogolook.	先が楽しみな子ども達もいる
- Čä, kamniäk, - diätin biliätin.	(53) さあ 出かけようと党員証に声をかけさせるがよい

↘ずに保持することが認められていた。バフルガスは優秀なコムソモール員であったので、脱退後も証書を保持し、共産党員証も持っているので、「2枚の証明書を持っている」と作中にある。

- (53) biliätkin と hirditkin はそれぞれ 2sg.poss.acc. の形で diätin「～に言わしめよ」の目的語。biliät ここでは「コムソモール証」、hirdit「レーニンの肖像のついた導き手」

Lenin hiraajdaak hirditin.	レーニンの写真のついた党員証に
Im taksar kāmā buolla,	夜明けの朝焼けの頃になった
Ärdähit tiataagī turda.	早起きのツンドラのみんが目を覚ます頃

Bahīrgas kamnaata tiaga,	バフルガスはツンドラに出た
(54) İraatta “Buran” tiaha.	ブラン車の駆ける音が遠ざかる
D’a bārtāāk bihiḡdaa hīrga,	まあ この速い橇の具合のすばらしいこと
Töhölöök taba hīnn’anna.	何頭分のトナカイの働きだろう

Kiil kördük “Buran” köppütä,	野生の大鹿の如くブランは飛ぶように走る
Hugahaata mas hagata.	森の境に近づいた
Hirdit dik ḡinna āmiskä	乗り物はひとしきり揺れると止まった
- Turuḡ, načaaskaan, - diäbitä.	少しここで待っていてくれよと言いく

Kömüḡü tabalīi karbaan,	深い雪の中をトナカイのように進んでいって
Ürdükkään čomčorgo tiḡan.	少し上の高台に登っていった
Tabaagī tohutan bīrakta,	タバコを割いて投げかけた
Ispiiskä mastarīn uurda.	燐寸棒もそこへ置いた

Barī tiataagī bihiḡta,	これはツンドラ人のやり方だ
Ölbüt kihigä kilīḡta.	死んだ人へのお供えものだ
Öḡdütür Bahīrgas buospanī,	バフルガスはあの疱瘡のことを思い出す
(55) Köhü - köhünän ilpiti.	トナカイ飼育の人々をあの疱瘡が
	根こそぎ連れ去ってしまったことを

---

(54) Buran「ブラン（モーター橇のブランド名）」

(55) ilpiti: ilt-「引く、運ぶ」ここでは「恐ろしい疱瘡が一族を絶滅させたことを思い出している」の意。

Onton uolattar källilär,  
Oŋuogu körön taajdilar.  
Ol ihin Bahīrgas káčäspät,  
Köstöök hirinän tumnubat.

やがて子ども達がやってきた  
お墓を見にやってきた  
バフルガスにこだわりはない  
トナカイ飼育者等がたどった道を迂回はしない

Kihi kuttanar iariīta,  
Privivka küühün bilbitä.  
Taba halīirin kördük,  
Onnuta kaalbakka hüppüt.

かつて人が畏れた病は  
ワクチンの力であとかたもない  
トナカイが舐め取るように  
あっという間に撲滅されたのだ

(1973 god, Dudinka)

1973年ドゥジンカにて

## 参考文献

- Аксенова, О(Е). Е. (1973) *Бараксан: Стихи*/ Пер. с долган. В. Е. Кравца; Худож. С. Туров; Вступ. ст. П. Е. Ефремова. Красноярск Кн. изд-во, Красноярск.
- Аксенова, Е. Е.(Огдо), Бельтюкова, Н. П., Кошеверова, Т. М. (1992) *Словарь долганско-русский и русско-долганский*, Изд. Просвещение, Санкт-Петербург.
- Аксенова, Е. Е., Барболина А. А.(1990) *Букварь: Для 1 кл. долган.шк.* / Утв. М-вомчар. образования РСФСР., Просвещение, Ленинград.
- Афанасьев, П. С., Воронкин, М. С., Алексеев, М. П.(1976) *Диалектологический словарь якутского языка*, Изд. Наука, Москва.
- Барболина, А. А. (1995) *Картинный словарь долганского языка*, Изд. Просвещение, Санкт-Петербург.
- Barbolina, A. A., Fujishiro, S.(eds.) (2001), *The Collected Works -Ogdo Aksenova- (Text, Japanese translation, Russian Translation & Commentaries)/CSEL Series, vol. 4, University of Tokyo.*
- Василевич, Г. М. (1958) *Эвенкийско-русский словарь*, Гос. Изд. Иностраннных и национальных словарей, Москва.
- Ефремов, П. Е. (2000) *Фольклор долган*, СО РАН, Новосибирск.
- Катараев, В. О. (1996) *Якутский героический эпос Могучий Эр Соготох (Памятники Фольклора Народов Сибири и Дальнего Востока )*, Наука, Новосибирск.
- Коркина, Е. И. (1982) *Грамматика современного якутского литературного языка*, Изд. Наука, Москва.
- Пекарский, Э. К.(1907-1930 / reprinted 1958-9) *Словарь якутского языка*, Изд. Академия Наук, Санкт-Петербург / Петроград / Ленинград.
- Семенюк, Р. Г. (1993) *Огдо Аксенова / Библиографический указатель*, Таймырская окружная Библиотека, Дудинка.
- Слепцов, П. А. (1972) *Якутско-русский словарь*, Изд. Советская энциклопедия, Москва.
- Stachowski, M. (1993) *Dolganischer Wortschatz*, Nakladem Uniwersytetu Jagiellonskiego, Krakow.
- (1998) *Dolganischer Wortschatz (Supplementband)*, Ksiegarnia Akademicka, Krakow.
- (2002) "Русское заимствование в долганском языке", *Kyoto University Linguistic Research*, vol.21, Kyoto University Department of Linguistics, Kyoto. (in print)
- Убратова, Е. И.(1985) *Язык норильских долган*, Изд. Наука, Новосибирск.
- Фасмер, М. (1964-1973) *Этимологический словарь русского языка*(т. 1-4), Изд. Прогресс, Москва.
- Fujishiro, S. (1999) "Two linguistic materials from Dolgan in Tajmyr", *Issues in Turkic Languages (CSEL Series 1)*, pp. 75-103, Kyoto University, Kyoto.
- 藤代 節 (Fujishiro, S)(2000)「アイデンティティと言語変容」,「京都大学言語学研究 (Kyoto University Linguistic Research)」19号, pp. 95-115, 京都大学言語学研究室.